

# 小山市事務事業評価シート

令和元年度版

No. 27

1. 基本情報			
<1> 事業・業務名	地域子育て支援拠点事業		<2> 事業・業務の別
<3> 選定基準	① 社会環境等の状況変化により、再検証が必要と思われる事務事業		事業
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 明日に生きる 男女が協力・子育て支援・ひとづくり	<4> 継続評価・新規評価の別
	中項目	3-2 未来を担うおやまっ子育成	継続評価
	小項目	3-2-1 子育て支援	<6> 担当部(局)
	施策	子育て支援総合センターの充実	保健福祉部
<9> 根拠法令・計画等	児童福祉法第6条の3第6項、地域子育て支援拠点事業実施要項	<10> 関連・類似事業	<7> 担当所属
<11> 会計	一般 会計	<12> 予算科目	こども課
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	保育みらい係
<15> 実施手法	全部委託	「その他」の場合 ( )	

## 2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要	子育て親子の交流や子育てに関する不安や悩みの相談を行うことにより、子育ての孤独感・負担感を緩和し、併せて地域全体で子育てを支援する基盤形勢を図る。市内5保育園に委託し実施。								
目的	<17> 事業・業務の目的	乳幼児及び、その保護者の相互の交流を図る場所を開設することにより、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行うことを目的とする。							
	<18> 事業・業務の対象	乳幼児、乳幼児を持つ保護者、及び出産予定保護者							
手段	<19> 平成30年度の活動内容	育児相談、誕生会、季節行事、リトミック等							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		実施箇所数(一般型)		5	5	5	5	100.0%	
	開所日数		240	237	240	237	98.8%		
成果	<21> 事業・業務の成果	子育て親子の交流と育児に対する不安感の減少。親同士のコミュニティ形成。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	利用児童延べ人数(1か所)	人	1,556	1,470	1,617	1,664	102.9%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		千円	39,735	39,735	39,925	39,925	100.0%		
		事業費等	千円	39,015	39,015	39,210	39,210	100.0%	
		財源内訳	国・県補助金	千円	26,010	26,010	26,140	26,140	100.0%
			地方債	千円					
			その他	千円					
一般財源	千円	13,005	13,005	13,070	13,070	100.0%			
人件費	千円	720	720	715	715	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,195 × 0.1	7,195 × 0.1	7,146 × 0.1	7,146 × 0.1				
他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -			
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいか?	2.中位
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?	2.向上の余地はない
		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	4.実施済み
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	4.該当しない	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由	取り組みに関して、利用頻度の多い保護者も見受けられ、本事業の目的である利用者の相互交流はある程度達成されている。また、利用者数に関して一定の水準、増加が見受けられる。今後は、参加していない・できなかった層に対してどのような働きかけを行っていくかが改善点と思われる。

4. Action - 改善 -			
事業の改善	<34> 事業の課題 事業の改善点 今後の方針	参加していない・できない層に対して、ニーズ調査を参考に、PR方法や参加方法について工夫する必要がある。	
	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持 理由 育児相談、子育て親子の交流の場として、安定した利用実績があり、子育て支援の拠点として地域に定着してきている。今後は、相談支援機関としての機能強化も検討しながら、事業を継続していく必要があると考える。
事業の方向性	<36> 2次評価	所管部長	3.現状維持 理由 地域の子育て支援拠点として更に充実した活動ができるよう、関係団体と連携を深めながら活動内容の充実を図り、事業を継続していくことが重要であると考え。

5 Plan - 計画 -					
事業の計画	<37> 実施計画	地区の民生委員児童委員等に事業のPRを図るなど、孤立しがちな親子が拠点に繋がるよう工夫を凝らしながら事業の浸透を図っていく。			
	<38> 活動・成果目標	利用者数の増加 利用者の援助内容の充実			
		<39> コスト計画	単位	令和元年度 計画	令和2年度 計画
		千円	33,670	41,475	
	事業費等	千円	32,955	40,760	
	人件費	千円	715	715	